



## 開設30周年を迎えて

奈良県総合リハビリテーションセンターは、昭和63年6月に心身障害者の社会的な自立を促進するため、障害の早期発見と治療、機能回復訓練としてのリハビリテーションを一貫して行う奈良県では初めての総合的施設—奈良県心身障害者リハビリテーションセンターとして開設されました。今年が創立30年目の節目に当たります。

平成18年4月には障害者が地域で自立して暮らせる社会作りを目指して、障害者自立支援法が施行され、これと時を同じくして当センターに指定管理者制度が導入され、名称も奈良県総合リハビリテーションセンターと改変され、経営基盤の改善とより一層のサービスの向上が求められるようになりました。平成26年4月には、県立奈良病院、県立三室病院とともに病院部門が奈良県立病院機構に組み入れられ独立行政法人となって現在に至っております。

病院部門では、内科、神経内科、小児科、整形外科、精神科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科の8科の診療科が診療を行い、小児から高齢者の方の急性期から回復期まで広い範囲にわたっての治療要望にお答えできるようにしております。リハビリ部門では、理学療法士30名、作業療法士27名(成人15名、小児12名)、言語聴覚療法士10名と67名のスタッフを配置し、良質なリハビリテーションの提供ができる体制を整えております。特に平成24年からは、回復期病棟では365日、切れ目のないリハビリができるようにして充実した療養が可能になりました。また、新しい試みとしてロボットスーツ「HAL」を訓練に加えて質の高い治療を目指しております。

一方、福祉部門は、平成16年には重症心身障害児・者の通所施設を、平成20年には高次脳機能障害支援センターを新たに開設し、平成24年には発達障害児の医学的療育支援を開始するなどニーズに応じたサービス提供に取り組んでまいりました。このように、創立以来病院部門と一体運営されてきましたが、病院部門が独立行政法人化された平成26年4月から福祉部門は奈良県障害者総合支援センターとして生まれ変わりました。

今後とも障害のある方々の支援を続けるために病院部門と福祉部門が手を携えてともに成長・進化できるように努力する所存です。皆様方には、今までと変わらないご支援・ご鞭撻を賜るようお願い申し上げます。

奈良県総合リハビリテーションセンター・奈良県障害者総合支援センター  
宮内 義純

## アドバンス・ケア・プランニング (ACP) を知っていますか？

内科 佐々木 理恵

### ■ ACP (Advance Care Planning) とは？

Advance    Care    Planning  
まえもって    ケアを    計画する



**患者さん**と医療・福祉関係者・ご家族などが、患者さんの将来の医療・ケアについての意向や希望について、繰り返し話し合い、**意思決定を支援するプロセス(過程)**のことです。患者さんの人生観や価値観、希望に沿った、将来の医療及びケアを具体化し、尊厳ある生き方を実現することを目標にしています。

超高齢化社会を迎え、患者さんの人生の締めくくりの時期に、家族や医療・福祉関係者等がどのように寄り添うかが、これまで以上に大きな課題となっています。患者さんが望む生き方を実現するために、その意思を十分に尊重し最善となる医療及びケアを実践できるよう、患者さんが意思を伝えられるときから、その意思を共有しておくことが重要です。たとえば、高齢者健診や介護保険の利用、大きな病気の後などをきっかけに、話し合いの機会をもつことが考えられます。

ACPでは、患者さんにとって大切にしてきたこと・これから大切にしたいこと、受ける医療やケアの希望、どこでどのように過ごしたいか、意思を表明できなくなったときに誰に代理をして欲しいかなどが話し合われます。患者さんの意思は変化する可能性があるため、繰り返し話し合うことが重要です。話し合いの内容はその都度文書にまとめることが大切で、患者さんの意思が確認できなくなったときにも、それまでのACPをもとに患者さんの意思を推測することができます。

地域で支えるという視点から、家族の他、かかりつけ医や看護師等の医療職、ケアマネージャー等の介護・福祉職など、多職種で患者さんの意思に寄り添うことが理想です。

ACPの活動は、終末期医療の現場から広まりつつありますが、元気なときから死を忌むべきものと捉えず話し合うことができこそ、充実した生を全うできるともいえるでしょう。死などまだ先の話と感<sup>まっ</sup>じるかもしれませんが、一説には人間はいくら長く生きても120歳くらいが寿命だそうです。まずは、ご自身のことから考えてみてもよいかもしれませんね。

## リハビリテーションセンターに赴任して

看護部長 柏木 三貴子

平成30年4月、看護部長として赴任しました柏木三貴子でございます。私は、これまで29年間、急性期病院で勤務した後、奈良県庁で看護師確保に関する取組を実施してまいりました。

奈良県総合リハビリテーションセンターは障害を持つ方々に特化した病院・福祉施設として、昭和63年開設以来、奈良県の回復期医療・福祉の拠点としての役割を果たしています。

急性期病院からお受けした患者さんが在宅復帰に向け、患者さんのめざす目標に向かって、日々のリハビリや看護ケアにより、入院当初、食事は経管栄養であった方が口から食べられるようになって、移動・移乗は全介助であった方が歩行練習が可能となり、日毎に回復されるお姿から、改めてリハビリの偉大さに感動を覚えます。

介護が必要になっても住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最後まで続けられるように、急性期での治療が終わった患者さんには速やかに当センターで集中的なリハビリを実施し、在宅生活につなげてまいります。また、障害のある方やご家族の在宅生活が続けられるよう支援してまいりたいと考えています。

私たち看護師一人ひとりが役割を認識し、自信と誇りを持って、患者さん、ご家族、地域の方々から信頼され、選ばれる病院をめざします。

どうぞ、よろしくお願い申し上げます。



## 子供の聴力検査

| 検査科



当センター耳鼻咽喉科では小児難聴外来を設けており、『音への反応が乏しい』『言葉が出るのが遅い』『聞き返しが多い』など難聴を疑うサインがみられたお子様に対して0歳児から年齢に応じた聴力検査を行っています。

聞こえているか意思表示のできないお子様の聴力検査は、色々な種類の音を聞かせてどれくらいの大きさを音源を探すなど何らかの反応がみられるか調べます。意思表示ができるようになると、音が聞こえたらボタンを押して玩具を動かすなど遊びを交えて検査を行います。

また、新生児聴覚スクリーニングで『要再検』となったお子様の精密検査(ABR)も行っています。

難聴を放置すると言葉の発達が遅れ、将来にわたって学習能力や社会性に影響を及ぼします。当センターではお子様に難聴が見つかった場合、できる限り早期に療育を開始できるようリハビリテーション科や、県立ろう学校とも連携しています。



# 開設30周年記念式典記念講演会のお知らせ

- 日 時 9月29日 11:00～
- 場 所 リハビリテーションセンター 多目的ホール
- テーマ 「素敵に生きよう」



## 【演者プロフィール】<sup>ねぎ しんじ</sup>根木 慎志 (公益財団法人 日本パラリンピック委員会)

小・中・高校では柔道・水泳・サッカーとスポーツ少年だったが高校三年生の時、突然の交通事故によって脊髄を損傷。以後、車椅子生活となる。知人の紹介にて車椅子バスケットボールと出会う。その後、持ち前の『ポジティブ精神』と『リーダーシップ』で国内トップクラスの車椅子バスケットボールプレーヤーに成長。2000年に開催されたシドニーパラリンピックでは、男子車椅子バスケットボール日本代表チームのキャプテンを務める。

度重なる海外遠征の経験や諸外国の選手達との交流などを通じて海外と日本の障害者に対する関わり方の大きな違いを感じる。そのころから今後日本の社会がどう変化すれば障害者が楽しく素敵に暮らして行けるのかを考えはじめ、現在では、「出会った人と友達になる」という独自のライフテーマをモットーに人と人との『つながりの環』を通してすべての人たちが友達になり、元気で幸せに生活できるまちづくりをめざす活動を行なっている。

2020東京オリンピック・パラリンピック招致委員会のアスリート委員として約2年間招致活動を行ってきた。現在は、日本パラリンピック委員会の運営委員・日本財団パラリンピックサポートセンター戦略推進部「あすチャレ!」プロジェクトディレクターをはじめ2020東京オリンピック・パラリンピックの成功に向けて活動を行なっている。

## 無料送迎バス 平成30年4月1日より当センターの無料送迎バス 最終便のダイヤを変更いたしました。

これまで当センターから大和八木駅南口行きの送迎バスは、16時15分発の便から次の最終便まで1時間半以上の間隔があり、ご利用者様に長時間お待ちいただくこともございましたので、最終便の発車時刻を17時50分から16時55分に繰り上げとしました。

また、最終便のみ大和八木駅南口を經由して橿原神宮前駅中央改札口まで運行区間を延長しております。

### 平成30年4月1日～ リハビリテーションセンター無料送迎バス時刻表

※運行は平日のみです(土、日、祝、12/29～1/3は運行しません)。  
 ※近鉄大和八木駅の乗り場は南口(ミスタードーナツ側)です。

近鉄大和八木駅 南口発 (身体障害者乗降口付近)		リハビリテーションセンター発	
リハビリテーションセンター行き		近鉄大和八木駅 南口行き	
35		8時	
20		5	45
0	40	10時 25	
30		11時 15	
50		12時 35	
30		13時 15	
20		5	50
5	55	15時 40	
30		15	55

※16時55分発の便は、社会就労センター前16時50分に社会就労センター利用者様乗車後、リハビリセンターバス停にて一般利用者様乗車となります。社会就労センター利用者様優先便となり、定員オーバーの場合は一般利用者様は、ご乗車頂けない場合がございます。この便は大和八木駅南口停車後、橿原神宮前駅中央改札口まで運行いたします。

## 奈良県総合リハビリテーションセンター (地方独立行政法人 奈良県立病院機構)

〒636-0345 奈良県磯城郡田原本町大字多722番地 電話 0744(32)0200(代) FAX 0744(32)0208  
<http://www.nara-pho.jp>

